

平成28年2月25日(木)

老球の細道214

畑の最高の肥料は作る人の「足跡」

会津バスケットボール協会 室井 富仁

現役教員の頃、高校入試の準備で日曜日が部活動全面禁止となったことがある。校舎内が全面機械警備になっているので、体育館などは何ら入試準備に影響などないはずだと思いき、部活動をやれるよう職員会議で提案した。そしたら多くの先生方から反対に合い、結局学校の体育館で練習することをあきらめ、別な場所で練習することに落ち着いた。

反対の理由は、入試に影響を与えることではなかった。せつかくの休日なのに、一つの部が練習すると他の部も練習したいとなる。すると、顧問の先生も休日に学校に行かなければならなくなる。顧問が行けないから休みにすると、あの部の顧問は来ているのに、うちの部の顧問はなぜ出て来ないのかと保護者からクレームが来るからということだった。

先日の朝日新聞の社会欄に、中学、高校の部活動を巡り、顧問を務める教員の多忙さ、休日返上の練習などの問題を改善しようと、若手教員らがネットで署名を集める活動を始めたことが掲載されていた。「部活動がブラック過ぎて倒れそう。顧問をする、しないの選択権を!」「若手教員は、体力が必要な運動部の顧問を担わされることが多くて体調を崩した」「授業準備に手が回らない。生徒と向き合う時間がほしい」と訴える。

私は高校のバスケットボール部の顧問をやりたくて教員になったので、新聞で訴えているような不満を感じたことはなかった。部活動の指導があったから毎日が楽しくて充実していた。しかし、現実には部活動の顧問を重荷と考えている先生たちがたくさん存在していた。学校教育上の位置づけもあいまいで、教育課程外の活動なのに教員は指導を強制され、サービス残業が日常化している。教員のボランティア精神でなんとか支えられていた。

そもそも部活動というものは、目的、目標を持って自主的、自発的に取り組む活動で、チームや他生徒、顧問の先生とかかわり合いながら、専門性や競技力の向上に取り組む活動である。その過程の中で、生徒が個性を伸ばし、社会性を高め、将来において社会的に自己実現できる能力を作る場面が豊富にある。だから、顧問の先生が部活動を指導するということは、生徒の人間性と社会性の向上に多いに役立つ。学校は勉強だけではない。

しかし、このようなメリットがあっても、忙しくて、好きでもない、自分の専門でもない顧問を持たせられた先生にとっては、部活動の指導はお荷物であり、毎日の放課後、土、日曜日が地獄と化することは想像に難くない。そのような先生に顧問をしてもらっている子供たちにも悪影響を与える。満足な指導をしてもらえない、練習休みが多い等。

この問題を解決するためには、まずは教員のタイムマネジメントである。授業や生徒指導、雑務にかかわる時間を上手にコントロールする。授業時数の多いことも問題である。部活動を指導する時間も授業時数としてカウントできないのだろうか。そのためには教員の数を増やさなければならないが。また、最近注目されてきた部活動だけを支援する「外部コーチ」または「部活動指導員」などを制度化することなどがある。お金がかかるが。

畑の作物にとって最高の肥料は何か?生産者の足跡であるといわれる。足繁く畑に通い、作物の状況をチェックすることで作物は順調に育つ。生徒の成長も同じだ。顧問の先生、指導者が、時間のやりくりをしながらコートに足を運ぶ回数をたくさん作る。そのためにも、顧問の先生の劣悪な環境改善とやる気のある指導者を確保する制度の改革を望む。